

# 委託事業実施内容報告書

## 平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 聖徳大学

### 1. 事業名称

文型説明型からCan-do文例型への発想転換に必要な諸事項を検討する事業

### 2. 事業の目的

- ① 従来の表面的言語形式の指導(文型の意味説明)から、生活場面で活かせるCan-do型指導への移行方法を検討する。
- ② 各文型の生活行動につながるファンクションを吟味し、実効性のある会話例文を発見する能力を開発する。
- ③ 文化庁の『標準的なカリキュラム案』で示された「教室活動の例」を参考に、具体的な指導手順を検討する。

### 3. 事業内容の概要

平成25年度に本学が実施した文化庁日本語教育委託事業では「ボランティア教室がどのような方向性を打ち出し、全体的な流れを変えていけるか」という組織論の問題に踏みこんだ視点からも種々の検討をした。その結果、これまでに定着した文型説明型の指導に問題があることを認めつつも、急激に新しい指導方法に乗り換える、ということに対しての不安や抵抗感、戸惑いなどの声が各教室に多くあることが課題となった。また、文型指導に付随して、実生活で活かす会話指導をおこなっている、との声もあったが、実際に内容を見ると、必ずしも実生活場面で活用できるとは言いがたい会話例になっていることが少なくなかった。こうした現実を踏まえ、平成26年度は「文型指導からCan-do型指導へ」の具体的な指標として、各文型の機能を引き出した多くの会話文例集を提示し、これを具体的な手がかりの一つとして「覚え込ませ型」にならないような指導手順を開発した。松戸市国際交流協会日本語教室と連携をしてCan-do型日本語教室を設置した。

#### 【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 5月17日(土) 13:00-17:00	4時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、中村初枝、 西澤清江、油野英子、 油川美和、中内薫、 遠藤尚子、盲家裕子、 小宮山まり子、真鍋昌子 (コーディネーター)	1. 日本語教育事業について 2. 日本語教育を行う人材の養成研修講座について	日本語教育事業の実施場所、実施日時、対象者の人数とクラス数について報告と日本語指導者、教材担当者の決定とそれぞれの仕事内容の確認。また教室報告書の記入方法指導があった。 研修講座の実施場所、実施日時、講師名報告とTAの紹介がされた。講座記録、講座報告書の記入方法、記録写真の撮り方の指導とそれらの保管方法の指導がなされた。
2	平成26年 5月19日(月) 13:30-16:30	3時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、中村初枝、 西澤清江、油野英子、 油川美和、中内薫、 遠藤尚子、小宮山まり子、 真鍋昌子(コーディネーター)	1. 日本語教室初日のことに関して 2. 教室設備に関して 3. 教材に関して	日本語教室初日の仕事(プレイズメントテスト、学習者誘導、受付、指導担当クラス、の役割分担を決めた。また教室設備や備品の使用方法の説明と日本語教室の机の配置について検討した。 教材作成について、振り返りシートや配付資料についての検討決定がされた。
3	平成26年 5月28日(水) 15:30-18:30	3時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、中村初枝、 西澤清江、油野英子、 油川美和、中内薫、 遠藤尚子、小宮山まり子、 真鍋昌子(コーディネーター)	1. 日本語教室初回の報告と反省点 2. 日本語教室使用教材に関して 3. 教室運営に関して 4. 教材に関して	初日を終わっての報告。反省と問題点の解決策を考えた。教室使用教材に関して、教科書のない学習者に対しての対応方法、作成した教材、振り返りシートの配付方法等が決められた。また「振り返りシートなど成果物は授業2日前までにWEB上のボックスにアップすることにした。 運営に関して、教室の心得の確認、出席簿の付け方の指導があり、写真撮影をし、文化庁に提出する旨、学習者に伝え承諾を得ることなどが話された。

4	平成26年 6月11日(水) 16:00-19:00	3時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、中村初枝、 西澤清江、油野英子、 油川美和、中内薫、 遠藤尚子、市村末子、 小宮山まり子、真鍋昌子 (コーディネーター)	1. 2014年度「JSL教育研究会研究班」名簿の確認について 2. 日本語教室について 3. 人材養成講座の運営について 4. 『みんなの日本語』練習Cの見直しについて 5. 練習Cの見直し作業予定	日本語教室について、目標の確認と 教え方の手順や「機能」という「概念」 の確認がなされた。 人材養成講座について、スケジュール 、教室の机の配置等の確認や、報 告書と授業記録の担当者を決 定した。『みんなの日本語』に 関して表記の原則の確認と今後の 作業について話された。
5	平成26年 7月16日(水) 16:00-19:00	3時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、中村初枝、 西澤清江、油野英子、 油川美和、中内薫、 遠藤尚子、市村末子、 小宮山まり子、真鍋昌子 (コーディネーター)	1. 授業見学について 2. 教室活動における問題点、 注意点について	研修講座受講生の教室見学に ついての注意事項や対応方法が 話された。教室活動における 問題点、注意点について報告 や意見が出された。
6	平成26年 8月6日(水) 15:30-18:30	3時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、中村初枝、 西澤清江、油野英子、 油川美和、中内薫、 遠藤尚子、小宮山まり 子、市村末子、 真鍋昌子(コーディネ ーター)	1. 日本語教室について 1) 見学者アンケートについて 2) 『みんなの日本語』練習C 制作版について 3) 指導方法について	見学者アンケートの内容を読み 上げ全員で出された意見を共 有した。『みんなの日本語』 Can-do型練習C制作版の検 討会について、教室活動の 反省点から指導方法について など先生の指導や意見交換 が行われた。
7	平成26年 9月24日(水) 13:30-16:30	3時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、中村初枝、 西澤清江、油野英子、 油川美和、中内薫、 遠藤尚子、小宮山まり 子、真鍋昌子(コーディネ ーター)	1. 日本語教室報告書について 2. 日本語教室事業に関して	日本語教室授業報告書の 内容と記録方法の確認がな された。また日本語教室 事業に関して、指導につ いての話し合い(反省と 意見)がなされた。反 省点や問題点に対して 多くの活発な意見が出 された。
8	平成26年 10月3日(水) 16:30-19:30	3時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、中村初枝、 西澤清江、油野英子、 油川美和、中内薫、 遠藤尚子、市村末子、 真鍋昌子(コーディネ ーター)	1. 報告書の書き方について 2. 情報共有について 3. 報告書教材イラストに ついて 4. 練習Cの見直し作業 予定	再度報告書の書き方につ いて細かな指導と、使用 イラストなど著作権に対 する確認がなされた。ま たCan-do型練習Cを再 度チェックし不具合な ところはボックスにア ップしておくことを確 認共有した。資料の共 有ネットワーク説明と、 保存方法の説明がな された。
9	平成26年 11月4日(火) 15:00~18:00	3時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、中村初枝、 西澤清江、油野英子、 油川美和、中内薫、 遠藤尚子、市村末子、 小宮山まり子、真鍋昌 子(コーディネーター)	1. Can-do型「練習C」に ついて 2. 今後の活動について 3. 教材作成のための必 要品について 4. 教材会議について 5. 研究会のテーマを考 える	機能をつけた練習Cの 制作について、文字の 表記、文法のこと、フォ ントなどについて統一 するよう細かな指導が された。今後、最終締 め切りまでの活動計画 、手順、内容について 話し合いがされた。ま た教材作成のための必 要書籍等を調べるお ことが指示された。
10	平成26年 12月10日 (水) 15:00-18:00	3時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、中村初枝、 西澤清江、油野英子、 油川美和、中内薫、 遠藤尚子、市村末子、 小宮山まり子、真鍋昌 子(コーディネーター)	1. 委託事業全体の総括 と振り返り 1) 運営について 2) 講座について 3) 教室活動について 4) 教材について 5) 全体	運営について、講座に ついて、教室活動につ いて、教材について、 全体で様々な多くの 意見が活発に出され た。印象深かったのは 今年全員が同じよう に前向きでそれぞれの 力を発揮できたこと である。また学習者も 充実した時間が持て たのか、教室再開の 声がとても多かった ということが印象 的であった。

## 5. 日本語教育の実施

(1) 講座名称 文型を基にしながら、Can-do型授業活動に発展させていく学習教室

(2) 目的・目標 文型の形式面をきっかけとしながらも、単なる抽象的な学習に偏重せず、在住外国人の生活行動を支える会話表現に発展させ指導する。また、これと連動して、授業活動の成果を「振り返りシート」によって評価する学習システムを開発する。

(3) 対象者 原則として来日後、短期間しか経ていない地域在住の外国人(6ヶ月未満。国籍・年齢は問わない)のクラスを中心とする。他にレベルの異なるクラス(来日6ヶ月~1年)も設定し、同時に開講する。

(4) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)

(5) 使用した教材・リソース  
『できる日本語』、『みんなの日本語 初級』、オリジナル会話例集、オリジナル絵教材 など

(6) 受講者の総数 24 人  
出身・国籍別内訳

中国	14人	インドネシア	0人	
韓国	0人	タイ	0人	アメリカ1人、ニュージーランド1人、オーストリア
ブラジル	0人	ペルー	0人	1人、フランス1人、カナダ1人、ベルギー1人、
ベトナム	0人	フィリピン	1人	スーダン1人、モンゴル1人、スリランカ1人
ネパール	0人	日本	0人	

(7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年 5月26日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	6人	中国(4人)、 ニュージー ランド(1 人)、オース トリア(1人)	自己紹介	初対面のあいさつ方法を教える。次に名前札を作成し、あいさつや簡単な自己紹介の方法を教え、実践する。	遠藤尚子	市村末子
2	平成26年 5月30日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	9人	中国(5人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 アメリカ(1 人)、モンゴ ル(1人)	自己紹介	初対面のあいさつ方法を教える。次に名前札を作成し、決まった挨拶以外にもう一步進んだやり取りができる自己紹介の方法を教え、実践する。	油川美和	小宮山まり子
3	平成26年 6月2日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	9人	中国(6人)、 ニュージー ランド(1 人)、オース トリア(1 人)、カナダ (1人)	他動詞文 「～は～を～ます」 (簡単な動詞を理解し、自分の行動を表現する。)	他動詞文の意味と使い方の理解。日常的に使う頻度の高い動詞を提示し、それらを使って誘う機能を持たせた簡単な会話を実践させ定着を図る。	遠藤尚子	市村末子
4	平成26年 6月6日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	10人	中国(5人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 アメリカ(1 人)、モンゴ ル(1人)、 スーダン(1 人)	「～んですが」 (助言をもらう時の前置きとして)	「～です」と「～んです」の違いを理解させる。日常会話で使われる「～んです」を用いた表現で、事情、原因、理由などを相手から聞いたり、自分から説明したりする。前置きとして使い、助言をもらう、許可をもらう、など、実践させ定着を図る。	油川美和	小宮山まり子
5	平成26年 6月9日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	10人	中国(6人)、 ニュージー ランド(1 人)、オース トリア(1 人)、カナダ (1人)、スリ ランカ(1人)	授受表現と手段の動詞「で」	交通手段、道具などを使って行動する際の動詞「で」の理解と定着。授受表現はモノの移動先など体得するために行動で覚える作業をする。	遠藤尚子	市村末子
6	平成26年 6月13日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	11人	中国(7人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 モンゴル(1 人)、スーダ ン(1人)	可能形 「ください」の婉曲表現「もらえますか?」の使い方と道がわからなくなった時に、自分のいる位置を説明する。	可能動詞の意味理解と作り方。自然可能動詞「見える」「聞こえる」の理解と使い方。する／なるの可能形「できる」の多様な意味(完了する、仕上がる、うまくいく)を理解する。スーパーやクリーニング店の場面で応用。また、位置を説明する場合は、何が見えるか、何がきこえるか情報を提供することができるようにする。	油川美和	小宮山まり子
7	平成26年 6月16日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	8人	中国(4人)、 ニュージー ランド(1 人)、オース トリア(1 人)、カナダ (1人)、スリ ランカ(1人)	形容詞を使っての表現(日常的な挨拶と持ち物を簡単に説明する)	形容詞の種類と使い方の練習。気温や感情、形態などのことばを理解する。またそれらを使って日常の挨拶を練習したり、自分の持ち物を説明したりさせる。	遠藤尚子	市村末子

8	平成26年 6月20日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	9人	中国(6人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 スーダン(1 人)	「～ながら、～」 「～し、～し」	同時に行われる継続的な動作「～ながら、～」の 意味理解。特に、決まり文句としての「お茶でも 飲みながら」の会話の定着。 いくつかの理由をあげて、感想、意見を述べる 「～し、～」の意味理解。特色を連ねて強調する 表現と、理由を羅列して断りを述べる表現の2パ ターンの会話の定着。	油川美和	小宮山まり子
9	平成26年 6月23日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	11人	中国(7人)、 ニュージ ーランド(1 人)、オース トリア(1 人)、スリラ ンカ(1人)、 フィリピン(1 人)	「好きです」「上手 です」「ありま す」、「わかりま す」の理解と使用実践	「好きです」「上手です」「わかります」「あります」 など基本文型を理解し、「依頼／断り／提案」な どの機能を持たせた会話の定着を図る。 学習者同士のロールプレイをさせ適宜イントネ ーションアドにも気を配る。	遠藤尚子	市村末子
10	平成26年 6月27日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	10人	中国(6人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 アメリカ(1 人)、スーダ ン(1人)	自動詞、他動詞 状態の「～ていま す」	写真やリアアを使って、状態を表している言い 方を示し、動作を加えて自動詞と他動詞の違い を明確にしながら授業を進める。 「～ています」の表現を使用し、相手に自分の状 態を伝え、断りや依頼の機能があることを理解さ せ、学習者同士で実践する。	油川美和	小宮山まり子
11	平成26年 6月30日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	11人	中国(6人)、 ニュージ ーランド(1 人)、オース トリア(1 人)、カナダ (1人)、スリ ランカ(1人)、 フィリピン(1 人)	「います」「ありま す」 (物の位置など存在 表現)	「場所にもものがあります」「場所に人／動物がい ます」の違いの意味理解。使用場面の提示によ り機能を持たせた表現の定着を図る。	菅家裕子	中村初江
12	平成26年 7月4日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	10人	中国(5人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 アメリカ(1 人)、モンゴ ル(1人)、 スーダン(1 人)	「～ておきます」 「～てあります」 (準備、措置、放 置)	「～を 他動詞＋ておきます」は、友人と旅行に いくことを想定し、準備することを、友人と相談す る場面を絵で提示し、理解させ学習者同士で相 談する実践。また、教師に対してもアドバイスを 求めている。②「～が 他動詞＋てあります」 は、「大丈夫ですよ」という意味を感じさせる絵を 提示し、意味の理解と実践練習で定着を図る。	遠藤尚子	市村末子
13	平成26年 7月7日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	10人	中国(6人)、 ニュージ ーランド(1 人)、オース トリア(1 人)、カナダ (1人)、スリ ランカ(1人)	助数詞 「一つ」「一冊」「一 枚」「一台」「一人」	助数詞の読み方と使いかた。発展形として「一 匹」「一本」「一冊」も入れた。教室にあるものや人 数を数えてみる。また個数・人数を指定し、確認 する機能を持たせて実践。	菅家裕子	中村初江
14	平成26年 7月11日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	10人	中国(5人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 アメリカ(1 人)、モンゴ ル(1人)、 スーダン(1 人)	意向形 (ともだちを誘う)	食べよう/勉強しよう/話そう。 学習者に話す相手が誰かを意識させ、普通形から 意向形に代わることに注目させる。 Ⅱ、Ⅲ、Ⅰグループの順に提示し、活用ルールに 学習者が混乱しないよう注意する。 「(意向形)と思っています」 時間軸と継続性を図で示し、わかりやすいよう に心がけた。 友達を誘う実践活動をさせる。	遠藤尚子	市村末子
15	平成26年 7月14日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	8人	中国(5人)、 ニュージ ーランド(1 人)、カナダ (1人)、フィ リピン(1人)	形容詞の過去形 ／比較級と最上級	形容詞の過去形の作り方と意味理解。最上級と 比較級の表現の違いと意味理解。 比較級／最上級を使って「選択する」「最善の 方法を尋ねる」など実際の生活で役立つ、機能 を持たせた会話の定着を図る。	菅家裕子	中村初江
16	平成26年 7月18日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	9人	中国(5人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 アメリカ(1 人)、モンゴ ル(1人)	「～た／～ない ほうがいいです」 「でしょう」「かもし れません」 (相談にのる／アド バイスや予想を伝 える)	絵パネルで場面設定しどんな会話がなされるか 想像させ、発話をさせてから、スキットを示し、ア ドバイスができることを理解させる。 学習者同士で相談したりのつたりして会話をさ せる。適宜教師は直していく。	遠藤尚子	市村末子

17	平成26年 7月25日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	10人	中国(6人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 アメリカ(1 人)、スーダ ン(1人)	命令・禁止 (スポーツの応援 と伝言)	命令・禁止形文は意味理解と同時に瞬時に取る べき行動の実践を行うことで提示。また、スポー ツのシーンを提示し、応援してみる。 示された内容を伝言する機能を持たせて提示 し、学習者同士で伝言の仕方を実践し定着を図 る。	遠藤尚子	市村末子
18	平成26年 7月28日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	11人	中国(6人)、 ニュージー ランド(1 人)、オース トリア(1 人)、カナダ (1人)、スリ ランカ(1人)、 フィリピン(1 人)	動詞＋たいの表現 (希望を伝える)	物を所有したい表現「Nがほしい」から、行動をし たいときの欲求の表現。自分の希望を相手に伝 える事ができるように実践練習をする。特に緊急 の場合(避難所で)などの設定でロールプレイを する。	菅家裕子	中村初江
19	平成26年 8月1日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	10人	中国(6人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 アメリカ(1 人)、スーダ ン(1人)	～とおりに ～あとで ～て／～ないで (付帯状況)	「～とおりに」方法を指示する形で提示 「～あとで」2つの動作のうち、後の動作を言っ て、今は断る、あるいは後者の動作を約束するな どの場面を想定し、意味の理解をうながす。 「～て／～ないで」日常の行為や、動作をどのよ うな状態で行なうかを述べる。ここでは「～ない で」を用いてアドバイスの会話として提示。	遠藤尚子	市村末子
20	平成26年 8月4日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	8人	中国(5人)、 ニュージー ランド(1 人)、カナダ (1人)、フィ リピン(1人)	～てください ～ています	動詞テ形の作り方と使用方法。 「テ形＋ください。」の形を用いて薦める機能を持 たせた会話を定着させる。また「テ形＋います。」 の形を用いて現在行われている行動を伝え、断 りや誘いなどの機能を持たせた会話の実践をさ せて定着を図る。	菅家裕子	中村初江
21	平成26年 8月8日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	7人	中国(5人)、 フランス(1 人)、ベル ギー、スー ダン(1人)	「～ば」「～なら」 (アドバイスをする ／もらう)	場面の提示により条件形「～ば」「～なら」を使用 した意味を理解する。～ば(最も基本的な仮定条 件の助詞。妥当な結果となることを示す) アドバイスを誘い出すような場面を投げかけ、発 話させる。 ～なら。(話し手のことばを受けて、最も代表的な ものを言う) 学習者の国へ旅行する、その条件を提示してア ドバイスを買う。学習者の言いたい気持ちを引出 し、適宜訂正しながら進める。	菅家裕子	中村初江
22	平成26年 8月18日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	10人	中国(6人)、 ニュージー ランド(1 人)、オース トリア(1 人)、カナダ (1人)、フィ リピン(1人)	「～てもいいです か」 「～てはいけませ ん」 (許可を求める)	「テ形＋もいいですか」をいろいろなものを使って 許可をもとめる表現を定着させる。またその場合 の動詞の選択がすぐに行えるように道具など用 意する。席に着く場合などの設定では、言葉だけ でなく態度や表情も重視した。 「～てはいけません」は、言われて分かればいい といった程度にとどめた。	油川美和	小宮山まり子
23	平成26年 8月22日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	9人	中国(6人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 スーダン(1 人)	「～ように」 (日頃の心がけ)	「V辞書形＋ように、Vナイ形＋ように」の形と使 われ方の確認。提示した動詞をもとに「～ように」 の反復練習をし、意味の定着を図る。実践とし て、非常時の準備としてどのようなことしているか 話し合ったりアドバイスしたりする。会話の中で適 宜訂正や、板書などを用いて、定着を図る。	菅家裕子	中村初江
24	平成26年 8月25日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	12人	中国(7人)、 ニュージー ランド(1 人)、オース トリア(1 人)、カナダ (1人)、スリ ランカ(1人)、 フィリピン(1 人)	～て、～て ～くて、～ 動詞文、形容詞文 を2つ以上繋いで 表現する方法	動詞文を2つ以上繋いで表現する基本形の提示 と理解。 行動を順を追って話す方法と、2つの行為の時間 的前後関係を強調し、依頼・指示の機能や安心 させる機能を持たせて提示する。 また形容詞は自分の持ち物などの説明ができる ことに重点をおく。	油川美和	小宮山まり子
25	平成26年 8月29日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	10人	中国(6人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 アメリカ(1 人)、スーダ ン(1人)	～られる (ハプニングが起 こる／地域の観光 名所を案内する)	受身形の作り方と用法を理解する。ハプニング (困った、大変だ、不満だというような)状況に遭 遇したときのことを出させながら、対話の中で適 当な表現に訂正していく。 持ち物の受け身に関しては語順を間違えやすい ので十分配慮して指導する。実践をとおして口頭 練習の回数を増やすことで、感覚で覚えさせる。 地域の観光名所等は写真などを用意し、説明さ せる。	菅家裕子	中村初江

26	平成26年 9月1日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	11人	中国(6人)、 ニュージー ランド(1 人)、オース トリア(1 人)、カナダ (1人)、スリ ランカ(1人)、 フィリピン(1 人)	規則・禁止事項を 理解する	規則、禁止事項が理解できる。 しなければならぬこと、しなくてもいいことが確 認できる。「～なければならぬ」は自分自身の 行為・事柄に対して、また、聞き手(相手)の行 為・事柄に対して、義務や必要性、また、必然的 な帰結を表すが、相手への強制の意味合いが含 まれるので、目上の人に使うと失礼になることに 配慮した。) 動作をしないことの許可を求めることができる。 それらを理解し、「～なくてもいいですか」を使っ て許可を求める機能を持たせた発話を練習す る。	油川美和	小宮山まり子
27	平成26年 9月5日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	10人	中国(7人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 スーダン(1 人)	～のは／～のを	例文は「提案」、「判断」の機能を持たせて提示す る。 「～のは」の使用方法和場面理解。後件に感想 、評価を入れて発話練習し、イベントについて実際 に話してみる。 「Nを忘れます」のNの部分に動詞を名詞化して何 を忘れたかを述べる。	菅家裕子	中村初江
28	平成26年 9月8日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	10人	中国(6人)、 ニュージー ランド(1 人)、オース トリア(1 人)、カナダ (0人)、スリ ランカ(1人)、 フィリピン(1 人)	Nができる ～することができる ～まえに (趣味の話ができる)	「動詞辞書形+こと」で名詞化されることを確認 する。 趣味の話をする。学期や語学などの能力とチ ケットを買ったりイベントに参加したりすることが 可能な表現があることを確認する。それぞれの 的確な使い方を知り、実践練習する。	油川美和	小宮山まり子
29	平成26年 9月12日(金) 18:30-20:30	2時間	聖徳大学10号館5階	9人	中国(6人)、 フランス(1 人)、ベル ギー(1人)、 スーダン(1 人)	「～て、～」 (理由を述べて感 想を言う)	教師がそれぞれの学習者に話しかけた言葉か ら、繰り返し発話された「～て、楽しかった」と 、「ニュースを聞いて、びっくりしました」、板書「～ て、～」から、本時の文型に気づく。 教師の誘導により、「Vて」に原因、理由の意味が あることを捉える。	菅家裕子	中村初江
30	平成26年 9月22日(月) 13:30-15:30	2時間	聖徳大学10号館5階	7人	中国(4人)、 オーストリア (1人)、スリ ランカ(1人)、 フィリピン(1 人)	「～たことがありま す」(経験を話す)	夕形の作り方と夕形使用の基本文型の提示と理 解。「～たことがあります」文型を理解し、自分の 経験を話す。経験の有無を聞き、情報を得たり感 想を聞いたりすることができる。	油川美和	小宮山まり子

(8) 受講者の募集方法

聖徳大学広報(HP等)／東葛地域の各市国際交流協会、教育委員会、日本語教室などに案内書郵送と共に直接勧誘、及びFace bookなどのソーシャルメディアを利用。



平成 26 年度 文化庁委託事業  
聖徳大学 言語文化研究所 主催  
「生活者としての外国人のための日本語教育事業」

# にほんご きょうしつ

## Japanese Language class

初級者対象の生活日本語会話教室



✽場所 : 聖徳大学 (千葉県松戸市松戸 1169)10号館 5F  
Seitoku University Building No.10 5F  
松戸駅東口徒歩 1 分  
It's a 1 minute walk from JR Matsudo station

✽日時 : 月曜日 Monday 13 : 30 - 15 : 30 (15 回)  
金曜日 Friday 18 : 30 - 20 : 30 (15 回)

✽費用 : 無料 ¥0 Free



✽スケジュール Schedule ✽すぐ使える「Can-do 型授業」

げつようび 月曜日 Monday 13:30-15:30				きんようび 金曜日 Friday 18:30-20:30			
1	5/26	9	7/28	1	5/30	9	7/25
2	6/2	10	8/4	2	6/6	10	8/1
3	6/9	11	8/18	3	6/13	11	8/8
4	6/16	12	8/25	4	6/20	12	8/22
5	6/23	13	9/1	5	6/27	13	8/29
6	6/30	14	9/8	6	7/4	14	9/5
7	7/7	15	9/22	7	7/11	15	9/12
8	7/14			8	7/18		



お問い合わせ (地域コーディネーター まなへ 真鍋)

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

日本語教室の運営 授業内容報告書

作成者 菅家裕子

授業実施日時		2014年 8月22日(金) 18:30 ~20:30		聖徳大学10号館	
担当教師名		菅家裕子		クラス名 Bクラス	
出席者		9名		補助者名 中村初江	
本時の目標		<p>1. 「~ように」を使って到達目標や努力目標を述べるができる</p> <p>2. 「~ようになりました」「いいえ、まだ(V可能形)ません」を使って目標に到達していない状態を伝えることができる</p> <p>3. 「~ようにしてください」は依頼、「~ようにしています」は自分の習慣を伝えることができる違いを習得し、使うことができる</p>			
学習させる文型および提示方法		<p>第 36 課</p> <p>1. 「~ように~」 黒板の文字を小さく書いて、学習者から発話を引き出した。</p> <p>2. 「~ようになりました」 汚い川ときれいな川を黒板に書く。絵を使ってきれいになった川でできるようになったことを学習者が発表する。 「まだ~ません」 絵を使って機能を持たせて導入を行った。</p> <p>3. 「~ようにしてください」「~ようにしています」 相手に依頼するスキットを演じ、学習者に見せる。 1文を2文に分けたカードを使って、文章を完成させながら提示した。</p>			
授業内容(時系列に沿って記入)		教師の活動		学習者の活動	
	文型指導	<p>1.</p> <p>①黒板に小さく今日勉強することを書く。</p> <p>②学習者の発話を注意深く聞き、学習者が今持っている日本語を確認する。</p> <p>③困っている絵と困っていない絵を対比させ、困っていない状態にするにはどう発話すればいいかを学習者と対話しながら提示した。〈1〉</p> <p>④「~ように」は可能形、ない形、辞書形につくことを意識させ、様々な動詞を提示し、グループ分けを行いながらルールの理解を目指し、口慣らし練習を行った。〈2〉</p> <p>2.</p> <p>①汚い川がきれいになった絵を使いながら、時系列を意識させた。〈6〉</p> <p>②川でできるようになったことを学習者から発表してもらいながら、時には絵を使い、以前はできなかったことができるようになったという機能を理解させた。〈7〉</p> <p>③練習Bを使い、口慣らし練習を行った。〈8〉</p> <p>3.</p> <p>①仕事で遅れる友達に遅れないようにして欲しいことを伝えるにはどう言ったらいいかを学習者と対話しながら、本時の文型に近づけていく。(~ようにしてください)〈12〉〈13〉</p> <p>②文型の導入が済んだら、文カードを使って相手に依頼する文を練習していく。〈14〉</p> <p>③相手に依頼する機能があることを理解させたら、同じ文を使って自分が心がけている、習慣にしていることを伝えることができるということを明示する。(~ようにしています)〈15〉</p> <p>④練習Bを使い、口慣らし練習を行った。</p>		<p>①教師の行動や提示した教材を手掛かりに、文型の表面的意味をとらえる。</p> <p>②文字カードや絵を見て、教師の質問に答えながら文型を理解する。</p> <p>③時系列を見て、状態の変化を理解する。絵を見て、できるようになったことを考え発表する。</p> <p>④教師や同じ学習者との対話を行いながら、本時の文型に近づき、教師の誘導に従い、口慣らし練習を行う。</p> <p>①教師の行動や提示した絵を手掛かりに、文型の表面的意味をとらえる。</p> <p>②絵を見ながら川でできることを発表する。同時に他の学習者が発表したことを聞き、文型の理解に役立てる。</p> <p>③教師の誘導に従い、口慣らし練習を行った。</p> <p>①教師の提示したスキットを聞き、誘導に従って何と言ったらいいかを考え発表し、本時の文型に近づいていく。</p> <p>②教師の指導に従い、口慣らし練習を行った。</p> <p>③違う文型を使うと、同じ文でも機能が変わることを理解する。</p> <p>④教師の指示に従い、口慣らし練習を行った。</p>	

	練習C	<p>1.</p> <p>①避難場所に逃げられるように地図で調べている絵を見せる。〈3〉</p> <p>②学習者からどんな会話が考えられるか引き出す。</p> <p>③正しいスキットを教師とアシスタントが演じる。〈4〉</p> <p>④会話文に出てくる初出単語等の確認を行う。</p> <p>⑤会話文の口慣らし練習を行う。(全体→個人練習→グループペア発表)</p> <p>⑥地震が来たら困らないように、何か準備をしていることはあるか、地震についての話題で対話を行う。〈5〉</p> <p>⑦学習者から出てきた未習語彙の意味を確認する。</p> <p>2.</p> <p>①上手に字を書いている人に話しかける絵を見せる。〈9〉</p> <p>②学習者からどんな会話が考えられるか引き出す。</p> <p>③正しいスキットを教師とアシスタントが演じる。〈10〉</p> <p>④会話文に出てくる初出単語等の確認を行う。</p> <p>⑤会話文の口慣らし練習を行う。(全体→個人練習→グループペア発表)</p> <p>⑥自分が「こうなりたい」という希望について、学習者と対話を行う。「～ようになりたい」を使って表現できるよう、教師が促しながら手助けを行う。〈11〉</p> <p>⑦学習者から出てきた未習語彙の意味を確認する。</p> <p>3.</p> <p>①寝不足の人に自分が心がけていることを伝える絵を見せる。〈16〉</p> <p>②学習者からどんな会話が考えられるか引き出す。</p> <p>③正しいスキットを教師とアシスタントが演じる。〈17〉</p> <p>④会話文に出てくる初出単語等の確認を行う。</p> <p>⑤会話文の口慣らし練習を行う。(全体→個人練習→グループペア発表)</p> <p>⑥自分が健康のために心がけていること、ルールなどを話題にし、対話を行う。「～ようにしています」を使うよう教師が促しながら手助けを行う。「～ようにしてください」を使ってもよしとし、自然に学習者同士に対話が生まれるようにする。</p> <p>⑦学習者から出てきた未習語彙の意味を確認する。</p>	<p>①示された絵の内容を理解する。</p> <p>②示された絵の会話を想像する。</p> <p>③スキットを見て場面を理解する。</p> <p>④初出単語やわからなところを質問。</p> <p>⑤口慣らし練習を行い、スキットを演じる。</p> <p>⑥自分が地震に対して備えていること、気を付けていることなどの対話を行う。</p> <p>⑦出てきた語彙を理解する。</p> <p>①示された絵の内容を理解する。</p> <p>②示された絵の会話を想像する。</p> <p>③スキットを見て場面を理解する。</p> <p>④初出単語やわからなところを質問。</p> <p>⑤口慣らし練習を行い、スキットを演じる。</p> <p>⑥自分の目標に関する話題で対話を行う。上手に言えないときは、教師の手助けを借りながら対話続ける。</p> <p>⑦出てきた語彙を理解する。</p> <p>①示された絵の内容を理解する。</p> <p>②示された絵の会話を想像する。</p> <p>③スキットを見て場面を理解する。</p> <p>④初出単語やわからなところを質問。</p> <p>⑤口慣らし練習を行い、スキットを演じる。</p> <p>⑥健康のために心がけていることを発表する。時折教師の手助けを借りながら、自分が言いたいことを言えるよう練習を行う。</p> <p>7. 出てきた語彙を理解する。</p>
使用した教材	絵パネル、絵カード、文字カード		
振り返りシートの実施方法	用意した振り返りシートを使い、教師の指示に従って本時の授業の振り返りを行った。設定した場面の会話を口頭で発表させ、それに対して教師が段階で評価を行った。できるだけ口頭発表に対する評価をコメントとして残し、学習者のできなかったところを明確化し、次回へのモチベーションに繋がるよう心掛けた。口頭発表が終わると記入式問題をさせた。記入を終了した学習者から教師が採点を行う。		
【教師の感想】	自分が心がけていることを話題にするとき、急に話を振られたらとっさに浮かばなかったようだった。またどう言ったらいいかわからず、間違った日本語で一生懸命説明をしている場面が多かった。少し時間を与えるなどの配慮が必要だったと思う。		
その他の問題点(備考)	積極的に発話する学習者とそうでない学習者とにわかれてしまった。学習者がペアで話をするような場面を作らないといけないと感じた。		

本語教室の運営 授業内容報告書

作成者 油川美和

授業実施日時	2014年 9月8日(月) 13:30 ~15:30		聖徳大学 10号館
担当教師名	油川美和	クラス名	Aクラス
出席者	10名	補助者名	小宮山まり子
本時の目標	① 動詞の辞書形を学習し、「辞書形+こと」で動詞を名詞化する用法の理解 ② [V辞書形/Nの/期間] まえに、・・・の用法の理解		
授業内容 (時系列に沿って記入)	学習させる文型 および 提示方法	第18課 1. Nが できます。 2. V辞書形+ことが できます。 3. 趣味は Nです。 4. 趣味は V辞書形+こと です。 5. V辞書形 まえに、・・・。 6. Nの まえに、・・・。 7. [期間/時間の長さ] まえに、・・・。 1, 2は、能力の確認・可能性の確認の機能を持たせて提示した。 3, 4は、自分の趣味の説明ができる機能を持たせて提示した。 5, 6, 7は、「いつ」何かの行動・出来事があつたか説明する機能を持たせ提示した。	
	文型指導	教師の活動 1. 補助者ができることを名詞で提示し、「Nができます」の文型を理解させる。 提示例文「〇〇さんは、英語ができます」 練習 B-1 形式の代入練習で口慣らし練習をしてから、QAをしながら能力、可能性の確認の表現の定着をはかる。 2. ひらがなで書いた文字カードを読ませ、次に、それを漢字で書いてくださいと言う。 <1> 提示例文「ひらがなを 読むことが できます」 「漢字を 書くことが できません」 辞書形の変形練習をし、定着をはかる。 練習 B-2, 3, 4, 5 形式の練習。ます形の文から 『辞書形+ことができます』の文への言い換え練習をしてから、QAをしながら 能力、可能性の確認の表現の定着をはかる。 アクティビティ: コンビニで何ができるか、を学習者に発表してもらい、運用力のスキルアップをはかる。 3. 「ミラーさんは、サッカーが好きです。日曜日は いつもサッカーをします。」という状況を共有し、ミラーさんの趣味を 名詞を使って提示する。 提示例文「(ミラーさんの) 趣味は サッカーです」 絵カードを使い、その他の名詞で口慣らし練習をする。 <10> <11> <12> <13> <14> <15> <17> 4. 「田中さんもサッカーが好きです。田中さんはサッカーをしません。いつもテレビでサッカーを見ます。」という状況を共有し、動詞辞書形+こと を使って、趣味を言う。 提示例文「田中さんの趣味は サッカーを見ることです」 「ミラーさんの趣味は サッカーをすることです」 練習 B-6 形式の練習。ます形の文から 『趣味は 辞書形+こと です』の文への言い換え練習で口慣らし練習をし、定着をはかる。 <10>~<17> 学習者に自分の趣味を言ってもらう。 5. 絵カードを2枚、時系列で提示し、16課で学習した『～てから、・・・』の表現を思い起こさせる。次に、同じ状況を『辞書形+まえに』の文型で表現することを提示する。 <22> <23> <24> <25> <26> <27>	学習者の活動 ①指導者の提示した教材などを手掛かりに、まず文型の表面的意味を捉える。 ②指導者の指示に従って「単語」「文型例文」の発音を口慣らし練習する。 ③練習Bで滑らかに言えるよう何度も口頭練習をし、スキルアップをはかる。 ④アクティビティを通して、口慣らし、定着をはかる。 ⑤自分の場合のことを、自分のことばで話してみる。

		<p>提示例文「テレビを見るまえに 勉強します」  「旅行に行くまえに 大きいかばんを買います」  「友だちのうちへ行くまえに 電話をかけました」  文の言い換え練習で口慣らしをし、絵カードを見て文を作り  定着をはかる。 &lt;28&gt; &lt;29&gt;, &lt;30&gt; &lt;31&gt;, &lt;32&gt; &lt;33&gt;, &lt;34&gt; &lt;35&gt;</p> <p>6. 「あした、試験です。勉強します。」とい状況を共有し、  『Nのまえに、・・・』の文型を提示する。  提示例文「試験のまえに 勉強します」  学習者に、試験や旅行のまえに 何をするかを質問する。</p> <p>7. 学習者にいつ日本に来たかを尋ね、『[時間の長さ] まえに』  の文型を提示する。  提示例文「10か月まえに、日本へ来ました」  学習者に、いつ日本へ来たか、いつ結婚したかなど質問する。</p>	
	練習 C	<p>1. お祭りのイラストや、神輿、盆踊りの写真を提示する。  &lt;2&gt; &lt;3&gt; &lt;4&gt; &lt;5&gt; &lt;6&gt;</p> <p>① 場面提示：学習者が、自分もお祭りに参加したい、お神輿  をかついだり、盆踊りをしたり、太鼓をたたいたりしたい、  という場面を共有する。  ② 指導者と補助者で例を演じてみせる。  ③ スキット文中の初出語等を確認する。  ④ 会話文の口慣らし練習をする。  ⑤ 自分のしたい事を代入して、言ってみる。 &lt;7&gt; &lt;8&gt; &lt;9&gt;  ⑥ 個人練習をする。  ⑦ 指導者と学習者でロールプレイをする。  (指導者が適宜補正し、スキルアップする)</p> <p>2. 「避難」のマークを見せ、何か分かるか聞いてみる。  次に「避難」の文字を示し、「ひなん」って何か聞いてみる。  &lt;18&gt; &lt;19&gt; &lt;20&gt;</p> <p>① 場面提示：ある日本語の語彙の意味が分からないとき、ど  のように聞けばいいかという場面を共有する。  ② 指導者と補助者でスキットを演じてみせる。  ③ スキット文中の初出単語等を確認する。  ④ 会話文の口慣らし練習をする。  ⑤ 指導者の指示で、入れ換え練習をする。(読書/乗り換え)  ⑥ 個人練習をする。 &lt;20&gt; &lt;21&gt;  ⑦ 学習者同士でスキットを演じる。  (指導者が適宜補正し、スキルアップする)</p> <p>3. 資料をコピーしましょうかと申し出ているイラストを提示。  &lt;36&gt; &lt;37&gt;</p> <p>① 場面提示：コピーするまえに、部長に見せるように指示し  ている場面を共有する。  ② 指導者と補助者でスキットを演じてみせる。  ③ スキット文中の初出単語等を確認する。  ④ 会話文の口慣らし練習をする。  ⑤ 指導者の指示で、入れ換え練習をする。  (配ります/パンチで穴をあけます) &lt;38&gt; &lt;39&gt; &lt;40&gt;  ⑥ 個人練習  ⑦ 学習者同士でロールプレイをする。  (指導者が適宜補正し、スキルアップする)</p>	<p>①指導者のスキットを聞く。  ②スキットで使用された本時の各文型と  その運用法に気付く。  ③初出単語等を理解する。  ④指導者の指示に従って、口頭練習のスキ  ルアップを繰り返しおこなう。  ⑤指導者の誘導で入れ換え、会話練習をす  る。  ⑥個人練習をする。  ⑦学習者同士または、指導者とロールプレ  イをする。</p>
	使用した教材	<p>(絵/パネル) 初出単語・場面風景・趣味の絵・「辞書形まえに」に使う絵カード  (文字カード) 導入に使うひらがなカード・文型カード</p>	
	振り返りシート の 実施方法	<p>振り返りシートを配らずに、1. 指導者と学習者で会話をさせ、指導者が評価をした。次にシートを配り、  2. 『しゅみは□□□□ことです。』の文型で自分の趣味を書かせる。3. イラストを見て、文を読み「動  詞の辞書形」を書いて穴埋めをさせる。</p>	

【教師の感想】	<p>辞書形はて形ほど難しくなかったので、本時の文型の「辞書形ことができます」「辞書形ことです」「辞書形まえに」は理解が早く、「コンビニでできること」をあげさせた時も、多くの事をあげることができ驚いた。しかし、まだまだ使える語彙が少ないので、「乗り換え」ってなんですか？という質問に対し、全員がああだ、こうだと四苦八苦しながら説明しようとしている姿が印象的だった。</p> <p>授業後、「帰るまえに、机をきれいに並べてください。」を引き出し、実際に使う場面を実体験させられてよかった。</p>
その他の問題点 (備考)	<p>練習Gのスキットも随分滑らかに言えるようになってきたが、促音がうまくできず、「ちょっと」が「ちよと」になってしまう中国人学習者が気になった。</p>





## (10) 目標の達成状況・成果

毎回、学習者に課す振り返りシート(平成25年度事業および今年度の事業で独自に作成した評価シート)や講師の記録、参考資料等をもとに、その成果を検討した。

今回の事業における日本語指導の大きな目標の一つは、「形式的な文型指導から始めて実践的なCan-do型授業にスムーズに移行する」ということにあった。最初からCan-do型授業(行動盤面から始める授業)をおこなわない理由は、これまでの地域日本語ボランティア教室のほとんどが採用している文型中心の構文指導型教科書をそのまま用いながら、従来の指導法から無理なく実践型会話に移行できる学習方法を模索するという企図からであった。そのため、最終段階でおこなうダイアログ型の練習を、努めて現実の場面・行為に沿ったCan-do型練習になるように教科書の練習文を変更した。

時間配分は、前半を「文型指導」、後半を「Can-do型指導」としたが、講師記録などをもとに検証すると、導入の文型指導に手間取ってしまい、メインであるべきCan-do型指導に費やす時間が圧迫されるという傾向も多少見られた。しかし、事業後半では次第にCan-do型の色合いの濃い授業が展開されるようになり、学習者からも「生活ですぐに役立つ」「言いたかった表現を学ぶことができる」という感想が聞かれ、好評を得ることになったのは大きな成果であった。

また、もう一つの大きな目標である授業終了時の「振り返りシートを用いた評価」の実施は、指導者のシートの取り扱いが次第に慣れ、学習者にもその意義が浸透していったもようである。

## (11) 改善点について

授業全体を通しての各指導者共通の改善点の思われるものは

① 前述の「文型指導」と「Can-do型指導」とに費やす時間配分については、指導者が文型指導の形式的な練習にとらわれてしまいがちであったので、「何を、どこまで、何のためにやればよいのか」という明確な基準を設けるべきである。

② 学習者個人のレベルでは、能力差が見受けられる場面があったので、その場合の指導のあり方(各人に費やす指導時間、レベル、課題の与え方など)を随時教師間で検討しておく。

③ 「文型指導」と「Can-do型指導」とをまったく切り離すのではなく、「文型指導」の導入時に示す例文は、できるだけ実際の生活場面で用いられる会話例として提示するようにする。

などがあげられる。

授業期間中に数回おこなった指導者会議で反省点を各指導者が共有できたため、期間後半では、かなり段どりの良い時間配分を目指せるようになった。

## 6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称 文型指導を基にしながらCan-do型会話練習につなげる方法を開発する研修講座

(2) 目的・目標 構文指導用の教科書を基にしつつも、単なる形式的・抽象的言語事項を学ぶのではなく、それらに示された文型が実際の生活場面でどのような機能をもって活用し得るかを、在住外国人に実践的に指導する方法を研修する。

(3) 対象者 地域でのボランティア日本語教育に2年以上従事している者。また、これまで日本語指導をしてきた経験を踏まえ、外国人の生活行動を支えるCan-do重視の日本語指導法に関心のある者

(4) 開催時間数(回数) 30 時間 (全 10 回)

(5) 使用した教材・リソース

『みんなの日本語』初級 I・II

聖徳大学言語文化研究所JSL日本語教育研究会が作成した練習CのCan-do版会話文化庁『日本語教育の標準的なカリキュラム案』における生活上の行為 分類一覧 など

(6) 受講者の総数 30 人

出身・国籍別内訳

中国	0人	インドネシア	0人
韓国	0人	タイ	0人
ブラジル	0人	ペルー	0人
ベトナム	0人	フィリピン	0人
ネパール	0人	日本	30人

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年 6月21日(土) 13:30~ 16:30	3時間	聖徳大学10号館5階	27人	日本 (27人)	「実用」に耐えうる 学習を提供する日 本語教室とは？	①「実用」とは？ ②教室で「実用」に近づけるためには？ ③授業と教材と私たち ④実用につなげる授業の一案 ⑤「言語活動目標」再考	西川寛之	油野英子
2	平成26年 6月28日(土) 13:30~ 16:30	3時間	聖徳大学10号館5階	26人	日本 (26人)	生活を支える活動 として、日本語教 室ができること は？	①日本語教室とは？ ②支援するために何が必要だと考えるか？ ③生活を支える日本語の授業の準備 ④カリキュラム案の「やり取りの例」の表現と「みんなの日本語」の文型提出の課を対応	西川寛之	油野英子
3	平成26年 7月5日(土) 13:30~ 16:30	3時間	聖徳大学10号館5階	27人	日本 (27人)	「機能」を考えない と大失敗！ ～Can-do 型会話 例文と振り返り シート	①はじめに・講座のテーマ(「機能」を大切に した日常会話力をどうすれば指導できるのか) ②地域日本語ボランティアについて ③「意味」と「機能」との違い ④北村先生と油川TAによる文型指導型の模擬 授業 ⑤「評価」の必要性和利用価値 ⑥質疑応答	北村弘明	油川美和
4	平成26年 7月12日(土) 13:30~16: 30	3時間	聖徳大学10号館5階	24人	日本 (24人)	めざせ、活動実践 力UP! ① 実践例を知る→考 える→作る	① Can-do型会話について ② グループ・ワーク ③ 地域発の教材をみる、教材紹介:「こうべを楽 しもう」「しゃべらんまいけ」「しゃべらんまいけ例 文集」 ④ 入門・初級者とのコミュニケーションに役立つ 資料の紹介 ⑤ グループ・ワーク ⑥ まとめ ⑦ 質疑応答	吉田聖子	油野英子
5	平成26年 7月19日(土) 13:30~ 16:30	3時間	聖徳大学10号館5階	27人	日本 (27人)	「覚える日本語」か ら「使える日本語」 ～Can-do 型授業 の展開と次の一歩	① 前回(第3回)の復習。「Can-do型会話例文を 作る時の原則」 ② 「覚える日本語」…日本語構文の学習→「文 型」と意味を覚える学習の手順例 ③ 北村先生の日本語学校時代のビデオ鑑賞。 ④ 練習Cで機能を持たせた例文練習の重要性に ついて ⑤ 受講者からの質問	北村弘明	油川美和
6	平成26年 7月26日(土) 13:30~ 16:30	3時間	聖徳大学10号館5階	19人	日本 (19人)	めざせ、活動実践 力UP! ② 実践する→質問す る→まとめる	① 正しい日本語から使える日本語へと、日本語 学習指導の考え方の変化 ② 外国人が「すぐに役立った」と感じる指導法を 心掛ける ③ 学習者からの質問にどう対応するか、受講生 2、3人ずつで話し合い発表 ④ 学習者の発話事例から ⑤ 学習者の「役所が難しいです！」という質問に 対応するに相応しい教材を受講生が選び、理由 を述べた ⑥ 日本語教室への入会申し込みメール紹介 ⑦ さほうと21教材バンクの動画教材の紹介 ⑧ 質疑応答	吉田聖子	油川美和
7	平成26年 9月20日(土) 13:30~ 16:30	3時間	聖徳大学10号館5階	26人	日本 (26人)	言語活動から考え る日本語学習 ～「Can-do 型会 話練習」と「文型指 導」の融合	① 嶋田先生ご自身の紹介を兼ねた活動のお話 ② 言語活動から考える日本語学習「Can-do型 会話練習」と「文型指導」の融合とということにつ いて ③ ラポールを目的としたペア・ワーク:参加者全 員に現状の問題点を、ペアで話し合い、提起 ④ 「できる日本語」の教え方を紹介 ⑤ Can-do型会話は熟達度を重視している ⑥ 「～なければなりません」の文型を使ったCan- do型会話との融合事例の紹介 ⑦ DVDで嶋田先生の学校の具体的な教え方と スピーチコンテストのポスターを描いた学習者との インタビュー紹介	嶋田和子	油野英子

8	平成26年 9月27日(土) 13:30～ 16:30	3時間	聖徳大学10号館5階	20人	日本 (20人)	わくわく授業のヒント &ポイント ～「人とつながる 日本語」をめざして～	① 先週全体の振り返り ② 先週の授業に付け加えて、Can-doと文型の融合事例 ③ OPIIにおけるCan-doを見てみる。 ④ 『みんなの日本語Ⅰ』25課「たら」の例文の問題点について2～3人のグループで話し合い、意見をだす ⑤ レベル(初上・中上・上上)別に同じタスクでされたインタビューを聞く。 ⑥ 国や個人によって言葉の捉え方が異なること意識について。 ⑦ 漢字のCan-doについて ⑧ 受講者全員が、嶋田先生の2回の講座を通して、1番印象に残ったことを発表する	嶋田和子	油野英子
9	平成26年 10月4日(土) 13:30～ 16:30	3時間	聖徳大学10号館5階	25人	日本 (25人)	文型の表面的意味を会話の機能的意味へ変換する方法と実例	① 来週の予定について ② 文型指導と行動との関連について(文化庁のカリキュラム案の構成図を基に) ③ 「みんなの日本語Ⅱ」の28課34課と40課について ④ Can-do型のスキットを作成する時の注意点	北村弘明	油川美和
10	平成26年 10月11日 (土) 13:30～ 16:30	3時間	聖徳大学10号館5階	23人	日本 (23人)	(総括)再確認! Can-do型授業の 目的・意義・効果	① [英語教育]の場合を例にとり ② これまでの質問について、アドバイス	北村弘明	油川美和

## (8) 受講者の募集方法

聖徳大学広報／東葛地域の各市国際交流協会、教育委員会、日本語教室などに案内書郵送(HPによる募集を含む)

## (9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

文型指導からCan-do型会話につなげる方法を開発する研修講座

平成26年 7月 5日 実施

授業題目 第3回「機能」を考えないと大失敗！～Can-do型会話例文と振り返りシート

担当講師名 北村弘明

【授業項目／内容】(時系列に沿って、おおまかな授業内容を記入)

### ① はじめに

- ・講座のテーマ(「機能」を大切にしたい日常会話力をどうすれば指導できるのか)
- ・Can-doに対する勘違い(“Can-do Statements”は単なる評価指標)
- ・従来型の学習支援(文型の運用の仕方を教えていない)

② 地域日本語ボランティアについて(生活支援のための日本語教育であること、つまり、学習者が「やりたい」と思うことを助ける日本語教育である)

### ③ 「意味」と「機能」との違い

- ・文型の意味(Can-do型になっていない例)
- ・文型の機能(機能をもった会話文例)
- ・練習CをCan-do型に改良した会話文例
- ・Can-do型会話例文を作る場合の原則7項目

④ 北村講師と油川TAによる文型指導型の模擬授業  
～「Nへ Vてから Nを Vします(た)。」の文型を使って

⑤ 「評価」の必要性和利用価値

- ・「振り返りシート」の有効性(ポートフォリオ化でき、自分で自分を振り返ることができる)
- ・その背景理念(「ティーチング」から「ラーニング」へ)
- ・振り返りシートの実例2枚
- ・「振り返りシート」ではいわゆる「i+1」のiを見抜き、必要な+1を見定め、何の力をつけたいか、を教師が自覚する。

⑥ 質疑応答

【受講者の反応】

- ・「みんなの日本語」模擬授業の後、練習の方法について多くの質問がでた。
- ・質疑応答の時間には“Can-do Statements”についての質問がでた。

【授業で特に気付いた点】

- ・模擬授業は受講生の参考になったようだ。

【授業の課題／反省点と思われる事項】

特になし

---

文型指導からCan-do型会話につなげる方法を開発する研修講座

平成26年 9月 20日 実施

授業題目 第 7 回 言語活動から考える日本語学習～「Can-do型会話練習」と「文型指導」の融合

担当講師名 嶋田 和子

【授業項目／内容】(時系列に沿って、おおまかな授業内容を記入)

- ① はじめに、嶋田先生ご自身の紹介を兼ねた活動のお話があった。嶋田先生は、特に「地域の日本語教育」を大切に考えている。秋田県能代市の事例紹介があった。
- ② 言語活動から考える日本語学習「Can-do型会話練習」と「文型指導」の融合とすることについて教科書は題材で、参考程度に使い、教案は作りこんでから、わくわくする授業を心がける。
- ③ ラポールを目的としたペア・ワーク:参加者全員に現状の問題点を、ペアで話し合い、提起させた。
- ④ 「できる日本語」の教え方を紹介した。「～てしまいました(後悔)」、「～かもしれません」、「Vたあとで～」の3文型を使ってCan-do型会話を検証した、特に、機能と文型との融合に注意した。
- ⑤ Can-do型会話は熟達度を重視している。学習者には文型だけではなく、適度の相槌でうまく引き出しながら長い文章で話す機会を増やす。

⑥「～なければなりません」の文型を使ったCan-do型会話との融合事例の紹介があった。

A:シートベルトをしなければなりませんよ。

B:あっ、そうなんですか。知りませんでした。

ルールを言う時、何と言うのか学習者が言いたくなるような授業をする。

⑦ DVDで嶋田講師の学校の具体的な教え方とスピーチコンテストのポスターを描いた学習者とのインタビュー紹介があった。

【受講者の反応】

・ペア・ワークが多かった。その後の活発な発表について、それぞれに先生のコメントがあった。

【授業で特に気付いた点】

・男性の参加者から、いつもより多く、質問や意見があった。

【授業の課題／反省点と思われる事項】

特になし







#### (10) 目標の達成状況・成果

毎回、受講者に課す授業レポート(運営委員会で作成したフォーマットを使用)や講座記録などの参考資料をもとに、その成果を随時運営委員会、講師会議で検討した。今回は、「文型指導」から「Can-do型指導」へのスムーズな指導の移行という点にポイントをおき、「文型指導」に関する留意点、「Can-do型指導」における留意点、その両者をつなぎ合わせる技法が主たる検討項目であった。それぞれの講師が各視点で重要と思われる項目について取り上げたので、その意義や課題がかなり受講者に伝わったのではないと思われる。

特にCan-do型指導においては、当初、「場面」→「行動」→「言語表現」の流れが、「場面」→「言語表現」→「行動」であるべきではないのか(「言語表現」がわかっていなければ「行動」ができないのではないかという理由で)という発想を持つ受講者もいたが、これが外国人のモチベーションにかかわる流れ(その場面で「ある行動」をしたいと思うから次にそれを実現するための「言語表現」が必要になる)ということを理解してもらうのに若干の時間を要した。しかし、最終的にはこのCan-doの理念は受講者に理解されたようであったことは大きな成果であると言える。

また昨年度までの事業の際にも見られたことだが、地域の異なる受講者同士が、互いの所属団体や地域の特色などの情報を交換し合い、連携を深める場となったことも大きな成果である。

#### (11) 改善点について

特に大きな改善点については見受けられなかったが、強いて挙げるなら

- ① ディスカッションやワークショップなどのアクティブ・ラーニング実施時に、講師の意図が受講者に伝わりにくい場面があった。
- ② 毎回授業終了時に受講者に課す「授業レポート」に書かれた質問・要望が、次回の授業にすぐ反映されない部分があった。

などである。これらのうち、残された課題については、聖徳大学言語文化研究所の日本語教育プロジェクトと各団体との定期的な連絡協議会を設け、本事業の経緯・学習の定着度を検証し、今後の課題につなげる予定である。

## 7. 日本語教育のための学習教材の作成

### (1) 教材名称

Can-do型授業を導き、その効果を確認する教材

### (2) 対象

原則として来日後、短期間しか経ていない地域在住の外国人(6ヶ月未満。国籍・年齢は問わない)のクラスを中心とし、他にレベルの異なるクラス(来日6ヶ月～1年)も対象とする。

### (3) 目的・目標

- ① Can-do型授業の本時のポイントと授業活動の流れを明示する教材を作成する(教師用・学習者配付用)。
- ② 授業の終わりに、本時でおこなった学習の要点とその成果を自己評価できる振り返りシートを作成する。
- ③ 学習者の振り返りシートを吟味することによって、教師も間接的に評価されるような様式を工夫する。

### (4) 構成・総ページ数

2時間×30回＝60時間 100ページ

### (5) 教材作成会議の開催について

#### 【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 7月8日(火) 13:00-17:00	4時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、油川美和、小宮山まり子、西澤清江、中内薫、真鍋昌子(コーディネーター)	1. 練習Cのたたき台について 2. 振り返りシートについて	教材作成の基本方針と、おおよその教材の類別、フォーマット、担当割り当てなどについて話し合った。
2	平成26年 9月16日(火) 13:00-17:00	4時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、油川美和、小宮山まり子、西澤清江、中内薫、真鍋昌子(コーディネーター)	1. 教材について 2. 振り返りシートについて	試作を持ち寄ったうえで、共通課題、教材と教案との兼ね合い、配置法、振り返りシートの形式などについて話し合った。
3	平成26年 12月8日(月) 13:00-17:00	4時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、油川美和、小宮山まり子、西澤清江、中内薫、真鍋昌子(コーディネーター)	1. 教材報告書記入方法について 2. 授業報告書について 3. 挿入イラストについて 4. ドロップボックスについて	教材報告書を踏まえ、授業報告書の中で教材がどのように扱われたか、またその改善点を各自が検討することを申し合わせた。
4	平成27年 1月20日(火) 13:00-17:00	4時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、油川美和、小宮山まり子、西澤清江、中内薫、真鍋昌子(コーディネーター)	1. 練習C『Can-do型』会話例集について 2. 作成した教材の分類・整理について	作成したCan-do型会話練習を展開するための教材を作成し、教室で実際に使用されたものを活かす方法を検討した。
5	平成27年 2月6日(金) 13:00-17:00	4時間	聖徳大学3号館 3319研究室	北村弘明、油川美和、小宮山まり子、西澤清江、中内薫、真鍋昌子(コーディネーター)	1. 練習C『Can-do型』会話例集について 2. 現状報告 3. 最終的なとりまとめへの注意点	最終的なフォーマットが決まっていなかったため、今回決定するとともに、Can-do型会話例集との兼ね合いで、どのような配置にするかも検討した。

## (6) 使い方

添付する教材は、教材単独の例示ではなく、おおまかな授業の流れの中で提示したので、各場面での使用例についてはだいたいの使用法を感じ取ってもらえると考えます。

教授法としては、ディレクト・メソッドを前提とするので、できるだけ語意・文意は教材の示唆によって学習者に「気づかせる・感づかせる」という帰納法をとる。また、文字カード・文字パネルは、提示された文型や会話の視覚的確認に利用し、同時にそのいくつかは、文字力の定着をねらっているところもある。

【Can-do型会話パネル】は、『みんなの日本語』初級の練習Cをより実践的な日常会話の形に直したもので、ここは教科書ではなく、このパネルにしたがって練習をおこなう。

## (7) 具体的な活用例

基本的には、まず本時に扱う文型が埋め込まれた会話がなされる「場面提示」のための「イメージ(イラスト・写真)」を提示し、その場面でおこなわれる「行動」にともなう「語彙・表現」を見つけ出していくために、その意味概念を示す絵(写真)カード・文字カードを具体的に使用した。場面をリアルに実感してもらうためのレリアや補助具なども随時使用した。

授業は教師による一方的な説明ではなく、努めて学習者との「対話」でおこなう授業を目指し、その会話の話題や方向を導く絵パネル・写真などを多用することになる。

発展的指導段階で、おそらく話題になるであろうと予想される例文や事物の写真・レリアを準備しておくことも考えた。

また、語意・文意の示唆のために用意した絵パネル・写真および文字カードなどは、随時、後の練習手順を示すための図示となるよう、配置を張り替えるなどして活用した。

## (8) 成果物の添付

(作成教材については、別に添付する)

## 8. 事業に対する評価について

### (1) 事業の目的

- ① 従来の表面的言語形式の指導(文型の意味説明)から、生活場面で活かせるCan-do型指導への移行方法を検討する。
- ② 各文型の生活行動につながるファンクションを吟味し、実効性のある会話例文を発見する能力を開発する。
- ③ 文化庁の『標準的なカリキュラム案』で示された「教室活動の例」を参考に、具体的な指導手順を検討する。

### (2) 目標の達成状況・事業の成果

上記の「事業目的」の各項目に従って言えば、①の指導の移行方法については、「Can-do型授業」の意義が十分理解されることが前提となるところが、従来の「教える文型先にありき」の発想からなかなか抜け出せない部分が残った。②の生活行動につながるファンクションを見出すというところが、指導者にとってはなかなか難しい部分であり、これについては研究者が多くの具体的な事例を示していく方がより現実的のように思える。

そのことは、③の「教室活動」にもつながり、「指導者が用意した項目を教える・伝達する」という発想だけでは、なかなか実行しがたい指導法ともなる。今回の事業においては、各取組で、これらの問題を具体的に解決していく研究や対策が取られたことが大きな成果であったと言える。

### (3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

特に「カリキュラム案」に示された「生活上の行為の事例」を参照することで、指導者が単に想像する外国人の生活場面の行為ではなく、説得力のある「行為の事例」を設定するためにとても有用であった。特に文型指導では、どうしても文型のために拵えた人工的な場面設定に陥りやすい面があるため、現実的な場面設定・行為の事例を考えることは重要である。

また「教室活動の方法の例」に掲げられた「ロールプレイ」「シミュレーション」「実体験」「施設見学」「フォトランゲージ」「ランキング」などの指導例は、マンネリ化しやすい指導手順にいろいろな授業展開の可能性を示唆するものとして、指導者に随時それらの有効な活用を促した。

「カリキュラム案」で気づいた点としては、「生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素」の表中、「機能」の欄に

情報要求  
情報提供  
言い直し  
言い直し要求  
注目表示(同意)  
注目表示(確認)  
注目表示(承認)  
注目表示(感想)  
注目要求  
要求  
情報要求／単独行為  
同意要求  
単独行為要求  
単独行為要求(勧告)  
単独行為要求(依頼)  
意思表示  
承認の注目表示  
否定の注目表示

儀礼(感謝)  
 儀礼／談話表示  
 儀礼(名のり)  
 儀礼(感謝)  
 儀礼(あいさつ)  
 儀礼(陳謝)  
 儀礼(祝福)  
 関係作り  
 関係作り(ほめ)  
 関係作り(願望)  
 関係作り(感謝)

などの用語で分類項目が掲げられているが、例えば他者への働きかけの具体的機能としては

許可・同意・承諾を(求める・与える・与えない)  
 義務・責任・負担を(述べる・伝える)  
 誘い・提案・招待を(受ける・誘う・断る)  
 申し出・勧誘を(受ける・断る・申し出る・勧めに従う)  
 忠告・アドバイスを(与える・求める)  
 苦情・文句をいう  
 命令・禁止する  
 断る  
 要請する・依頼する・承諾する  
 注文する  
 請求する  
 呼び出す(電話口など)  
 励ます  
 警告・注意する  
 注目させる  
 説得する  
 叱る  
 強制する  
 弁護・弁解する

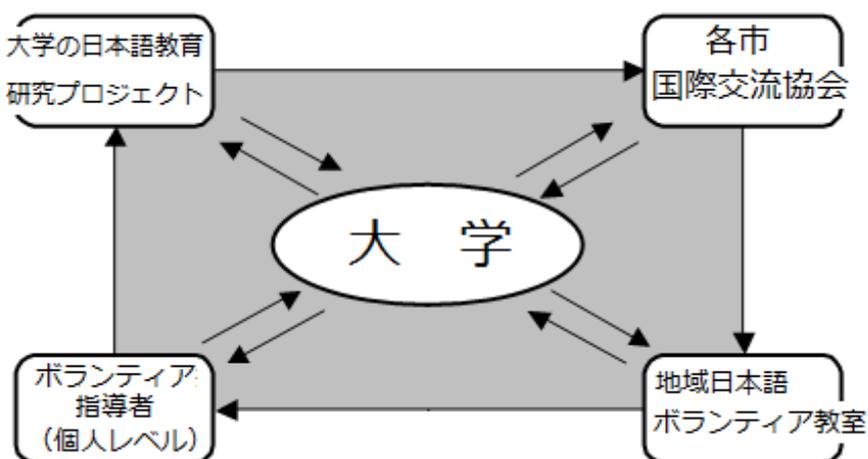
などのレベルにまで具体化した表現とした方が、一般的には通りが良いように思えた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

日本語教室の運営については、異なる地域の指導者が担当したが、それぞれの所属団体で「マンツーマン」の指導しか経験したことがない指導者が「1対多」の授業や対話型の授業を経験できたことが大きな成果だったと、感想を述べている。

また、人材養成講座では、地域の異なる受講者同士が、互いの所属団体や地域の特色などの情報を交換し合い、連携を深める場となったことが大きな成果の一つであることが挙げられた。

今後も、この事業の精神を継続し、大学と地域の各団体との定期的な連絡協議会を設け、本事業の経緯・学習の定着度を検証し、今後の課題につなげる契機としたい。今後の取組体制のおおよその概念図は下記のようなものとする。



## (5) 改善点、今後の課題について

全取組を通じて、特に大きな改善点というようなものはなかったが、本事業をより効果的に運用する際、各取組間の関係性という問題が残るように思う。各取組を閉鎖的におこなうのではなく、それぞれの成果や問題点を各取組で共有し、互いの連携の中から解決策を見出していくという運用をもっと心がけていく必要を感じた。

今回は、日本語教室の様子を、人材養成講座の受講生に見てもらおうという活動、また日本語教室の指導者が人材養成講座を受講するという形でその連携を図ったが、よりダイナミックな連携や協働体制をつくる必要もあったのではないかと考えられる点が、今後の課題である。

## (6) その他参考資料

### 【人材養成講座についてのアンケート】

★特にこの講座で印象深かったこと、学んでよかったと思うこと

- ・今の日本語教育の中でCan-doをすることの難しさ。
- ・文化庁の取り組みについて。
- ・ボランティア同士の情報交換ができてよかった。
- ・『みんなの日本語』とCan-doに少し結びつけるヒントをいただきありがたい。
- ・i+1の大切さ！
- ・文型の持つ機能を押さえたお役立ち文型として生活会話を導くこと。
- ・Can-do型授業の考え方にとても共感し、感動した。
- ・学習者の立場に立つ重要性。授業を進める際に、自分本位でなく学習者のことをもっと考えなければならない。
- ・『みんなの日本語』を使いながらCan-do型会話にいかにつなげていくか難しさを改めて認識した。
- ・文型とそれを構成する語の意味がより深く理解できるような気がする。
- ・練習Bについても今までではやや軽く考えていましたが、改める。
- ・Can-do型会話だけを強調した今までの講座と違って、文型指導とのつなげかたを教えていただいたので、十分ではなかったが、非常に勉強になった。
- ・聞くことが全て新しいことすべて参考になった。
- ・Can-do自体、奥が深いと感じていた。まだまだ勉強不足であることを痛感している。
- ・文型とCan-do型との融合の中で文型が重要だと分かった。
- ・「正しい日本語」から「使える日本語」が私の考えと一致した。
- ・言語はいかに覚えるか、ではなく言語を伝えるかどうかが大切である。
- ・SEFRの分類でC2、C1、B2,B1,A2,A1
- ・文型指導するうえでも実際の場面をイメージさせることが大事。
- ・すべてのことをCan-doにつなげていかなければ意味もなくなる。
- ・学習者は「ことばを覚えるだけ」が目的ではない。ことばを学び生活していけることが目的である。実用に耐えうる学習を提供する。
- ・『みんなの日本語』練習A・Bの練習のさせ方がわかった。
- ・いかに学習者の生活に必要な場面・会話に沿った教え方をしていくことが大切かということが分かった。
- ・Can-doに縛られてもいけない。
- ・捨てる勇気も大切である。
- ・目の前の学習者を見ること。
- ・『みんなの日本語』練習A,Bの教え方も大変参考になった。今までのやり方が形式的に過ぎていたと反省している。

★この講座を受講した成果をどんなことに役だてたいと思いますか

- ・まず、所属団体のメンバーに内容を伝えたい。
- ・反省することが多いので出直しの感じでやっていきたい。
- ・会話を引き出すときのヒントとして。
- ・自分の日本語指導の中に取り入れる努力をしたいと思う。
- ・ボランティアの授業に反映させられるといいと思う。
- ・文型練習として流している場合があるので学習者の生活に合わせて膨らませていきたい。
- ・自分自身の語学の勉強の仕方が変わると思う。
- ・教科書の課をこなす(終わらせる)ことにばかり目がいていたことを反省。その課を学習者が必要とする場面を考えた授業をしていきたいと思う。
- ・現在担当している日本語指導に心がけなければならないことを実行していく。
- ・日々の活動に役立てる。(児童、自宅での指導)
- ・現在ボランティアをしている日本語教室で早速役立てられるよう努力したいと思う。
- ・地域のボランティア活動の場で役立てたいと思う。
- ・何とか自分の授業の中で実践して、成果を見てみたい。
- ・来日間もない生活者としての外国人にやはり日常生活で使える日本語を教えたい。
- ・日本語を学ぶ外国人教育のボランティアに役立てたい。
- ・今すぐ何とかするという予定はないが、日本語講師に実習を控えているのでまずはそこでトライしてみたい。その後はボランティア活動に生かせればと思う。
- ・今後のボランティアを含め教室活動を行っていく上でとても参考になった。受講してよかったと思っている。
- ・Can-do型授業のやり方が少しわかり始めた。今後「できること」をするためにどう使うべきか自分なりに考えていきたい。
- ・ボランティア教室での学習者の指導に役立てる。
- ・学習者にとって勉強したことが、すぐに実生活で使える、ためになったと言ってもらえる授業にしていきたい。
- ・何とか日本語学校の授業に役立てたいとは思いますが……。難しい。
- ・現在地元国際交流協会日本語教室で外国人に教えている。毎回授業の初めに各人2~3分、先日のトピックを話させているが、これを使ってCan-do型授業に発展させたい。
- ・聖徳大学での日本語教育と教室見学、そのやり方は我々にとって参考になった。これを生かした授業をとり入れて行きたい。”

★今後、開講を希望する講座がありましたらお書きください

- ・漢字圏学習者と非漢字圏学習者の教え方について。
- ・Can-do型語学に関する講座。
- ・日本語教師検定に関する講座をお願いします。
- ・次回もできれば今回と同様をお願いしたい。特に今回示された練習Cを使ったものをしてほしい。
- ・今回の講座と同じような内容のものを、ぜひもう一度やってほしい。
- ・『みんなの日本語』の1課から50課までの教案の作り方を教えてほしい。
- ・次回もぜひ受講したいと思う。実際のボランティア活動も拝見でき勉強になった。
- ・もっと日本語教育に携わる人に参加してもらえる講座を開講してほしい。ネットワークを広げよう。今後も期待する。

